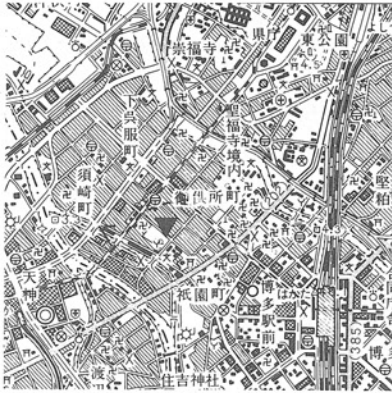


福岡・博多^{はかた}遺跡群

- 1 所在地 福岡市博多区店屋町
- 2 調査期間 第六一次調査 一九八九年(平一) 二月～一九九〇年一月
- 3 発掘機関 福岡市教育委員会
- 4 調査担当者 菅波正人
- 5 遺跡の種類 中世都市
- 6 遺跡の年代 平安～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



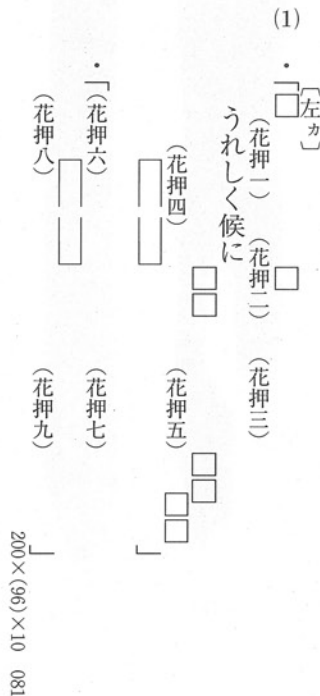
(福岡)

調査地は博多遺跡群が立地する二つの大きな砂丘のうち、南側に位置する博多浜の西側の低地に位置する。
この地点は一二世紀以前は湿地帯の様相を呈し、一三世紀前後に埋め立てを行なって、遺構を形成している。確認された遺構は一三世紀中頃～一六世紀末にかけての時期のものである。

一三世紀の遺構として銅製品の鑄造遺構がある。一四世紀以降になると、調査地点の東側で検出された東西道路に沿った建物が見られるようになり、町家の拡大がこの地点まで及んだことがわかる。木簡が出土した遺構は規模二・二×二・二m以上、深さ約一mの不整形形の土坑SⅩ一三〇である。土坑の壁面には杭が打ち込まれている。

遺物は土坑の最下層から木簡のほか、中国製青磁、白磁、土師器、漆器椀、板草履、下駄、箸状木製品、将棋の駒(玉将、香車カ)などが出土した。時期は出土遺物から一三世紀後半に位置づけられる。

8 木簡の釈文・内容



木簡は右側が欠損している。表面は花押が縦二列に、右側に三個、左側に二個書かれている。花押の列の前後には文字の墨書がある。



墨書の大半は判読しがたいが、二列の花押の間の文字は「うれしく候に」とある。裏面は花押が縦二列に、右側に二個、左側に二個書かれている。花押の間には墨書があるが、判読できない。表面の花押のうち花押三・五の二個は公家様花押タイプであり、花押一・二・四の三個は武家様花押タイプと分類される。そのうち、後者の花押は鎌倉中後期の北条氏や幕府奉行人・得宗被官の花押の形状に似ている。木簡の時期の一三世紀後半の博多には、鎮西探題などの幕府の機関があり、こうした出先機関の奉行人クラスの花押の可能性が想定される。

木簡の釈読は、九州大学の佐伯弘次氏による。



9 関係文献

佐伯弘次「博多六一次調査地点出土の花押墨書木簡」〔博多二四〕福岡市埋蔵文化財調査報告書二五二（一九九一年）

（菅波正人）